『広報とらっく』東日本大震災特集 2018　後編

# 東日本大震災から7年

# 福島の復興へ向けて

未曽有の被害をもたらした東日本大震災の発生から、7年経過した。被災地では復興に向けた取り組みが本格化しつつあるところもみられるが、一方で福島県では、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で7年が過ぎても一向に復興への進捗がみられず、風評被害など厳しい現状を突き付けられている地域もある。

今回は、福島県内の運送事業者が集まり、県内の除染廃棄物輸送に取り組み、一刻でも早い「福島の復興」を目指す、福島復興支援輸送協同組合（福島市）の現状を紹介する。

## 福島復興支援輸送協同組合（福島市）

## 「輸送力活かし、一刻も早く元の福島を」

## 県内各地から中間貯蔵施設へ除染廃棄物等を輸送

福島県泉崎村のさつき運動公園陸上競技場の仮置場から出発する同協組所属の大型ダンプトラック。2台での隊列走行を基本とし、大熊町の中間貯蔵施設を目指す

### 福島第一原発事故が影響　今もつづく風評被害

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方の沿岸部を中心に壊滅的な被害を及ぼした。中でも、福島県では、東京電力福島第一原子力発電所事故により、地震、大津波に加えて3重苦ともいえる被害を受けた。さらに、その風評被害も大きい。

本来、放射性物質は、時間とともに減少し、また風雨などの自然要因による減衰効果（ウェザリング）もあるため、自然に放射線量は減っていく。しかし、そのためには長い年月がかかることから、少しでも早く放射線量を減らし、福島の元の姿を取り戻すためには、除染が必要不可欠となる。

除染作業は、国により計画的に管理されて行われている。福島県内の市町村で行われた除染作業で取り除かれた放射性物質を含む土壌や汚泥、草木などは、各市町村の協力を得て公園や学校などの仮置場または個人住宅地に一時的に保管されている。

これらの除染廃棄物を安全に集中的に管理・保管するための施設が「中間貯蔵施設」であり、県内の大熊町・双葉町で建設を進めている。福島県内の各市町村から除染廃棄物を中間貯蔵施設へ輸送することは、まさに除染の一環であり、この輸送を担うのは「トラック輸送」だ。

### 福島復興支援輸送協組を設立　立ち上がるトラック運送業界

除染廃棄物の輸送を通じて、早期の福島の復興・再生を後押しするために立ち上がったのが、福島県トラック協会である。

福島県ト協では、平成27年7月の理事会で協同組合の設立を意思決定し、当時福島県ト協の会長であった、渡邉泰夫氏が理事長となり、10月30日に「福島復興支援輸送協同組合」を設立した。

設立当初は、中間貯蔵施設への本格輸送開始に向け、施設等建設のためのコンクリート製品など資材輸送を納入業者から共同で受注し、組合員の運送事業者に分担した。その後、28年の5月には、事業計画に「中間貯蔵施設への除染廃棄物輸送」を追加し共同受注した。

現在では、組合員も増加し、ダンプ部会員を中心に114社（平成29年12月19日現在）で構成されている。

点呼では健康状態などの確認のほか、リスクマネジメント手法によるATKY（アタック・ケイワイ、危険予知訓練）なども実施される

輸送対象物は、福島県内で発生した、除染に伴い生じた土壌と木、落葉・枝、側溝の泥等の廃棄物、そして放射能濃度が10万ベクレル／キログラムを超える廃棄物（焼却灰等）である。

全体の発生量については、減容化前で1870～2815万㎥、減容化後で約1600～2200万㎥、焼却灰で約1・8万㎥と推計されている。

国の除染作業のうち「除去」自体は、平成29年3月までにほぼ終えており、現在は中間貯蔵施設への輸送が本格化している。同協組だけでなく事業全体の28年度実績では、福島県内41市町村から約18・4万㎥が輸送された。29年度の輸送計画は、学校に保管されている分を優先的に33市町村から50万㎥を運ぶ予定で、これはダンプトラック換算で1日当たり350台往復分となる。同協組では、このうち、県南地区から約5万㎥、ダンプトラック換算で約8000台を担う予定で、29年10月から輸送継続中である。

### 除染廃棄物輸送は厳密に管理　「安全かつ確実」が大原則

この汚染土壌等の除染廃棄物輸送は、法律（除染電離則）上「除染等業務」に含まれる。従って、除染作業と同様に作業者の健康を害することのないよう、個別の被ばく線量の管理や特別講習の受講など細心の注意を払うことが義務付けられている。

「除染廃棄物輸送に従事するドライバーは、作業従事者として『除染等業務特別講習』を受講しなければなりません。予め作業従事者は事前に登録しなければなりません。また、高線量地域での作業となることから、本人からの同意を取ることとしています。料金については、運賃の他に特殊勤務手当を収受できますが、これは従事者本人に全額支給しなければなりません。使用する車両も、登録外の車両を使用することはできないなど、安全管理を含めて非常に厳密な管理が求められるのです。しかし、福島の元の姿を一刻でも早く取り戻すために、組合員一同一丸となって取り組んでいます」（荒川孝一専務理事）

運行管理も徹底して安全を第一に考えて行われる。放射性物質が含まれた土砂等を輸送することから、①安全かつ確実に輸送を実施、②できる限り短期間で輸送を完了、③国民および関係機関の理解と協力のもと輸送を実施――することの3つの基本原則に基づいている。

このため、輸送経路は、事前に人口集中地区や学校等をできる限り避けるルートを選定し、全車両はGPS機器を搭載して、国が往復の全車両の位置情報を管理している。また、国道や高規格幹線道路、高速道路を優先して使用し、そのために道路補強や改良等も行われている。

また、放射性物質の飛散や流出の防止を図り、迅速に輸送するために、様々な対策が取られている。除染廃棄物は1㎥あたり1袋のフレキシブルコンテナに詰められ、ダンプトラックに積載された後も、防水または遮水シートで確実に覆われる。

車両には、前後左右に除去土壌等運搬車である旨を明示している。

輸送の時間帯も、特に学校生徒・児童が登校する時間帯や一般車の渋滞ピークを避けて行われる。

「当協組では、毎運行日ごと、午前6時から点呼が始まり、8時から概ね11時過ぎまでに出発します。仮置場での積み込み可能な台数が限られているため、5台前後のグループで段階的に出発し、輸送完了までグループ単位で行動します。輸送ルートもGPSで厳密に管理されており、ちょっとでもルートから外れるようなことがあると、事故扱いになるほどです。安全・確実に、そして、迅速に除染廃棄物を中間貯蔵施設に輸送するため、従事するドライバーは様々な教育・研修を受け、安全確保に努めています」（同）

仮置場でダンプトラックへと積込まれる除染廃棄物

### 今後の輸送量拡大に対応　車両大型化など要望へ

環境省は、29年11月21日に、今後の計画で、除染廃棄物の輸送を30年度は180万㎥（ダンプトラック換算で毎日約1200台往復）、31年度は4000万㎥（同約2600台往復）、32年度には全量搬入を完了する予定と公表した。

今後の大幅な輸送量の拡大に対応して、道路整備にも拍車がかかる。常磐道の大熊IC・双葉ICの設置で輸送ルートを短縮させる計画の他、相馬～福島間の復興道路も一部開通し、霊山～相馬間が3月10日に開通している。

同協組では今後、環境省・国土交通省・福島県へ要望等を実施していく。

特に、各市町村の仮置場から中間貯蔵施設までの除染廃棄物の輸送は、輸送業務（運賃払い）と捉え、事業用トラックでの活用を要望。

一方、運転者の拘束時間を考慮して、1日当たりの輸送台数が多い仮置場では、時間差入場時間を要望し、輸送の効率化、道路渋滞対策や環境対策（$CO_2$削減）も提案していく。

「当協組は除染廃棄物の輸送を通じて、福島県の早期復興と風評被害の払拭に協力するのが大きな目的です。30年度からはさらに大量輸送も始まり、車両確保が大きな課題になってきます。使用車両をダンプカーから平ボディやウィング車にも拡大できるよう、輸送効率を高める要請活動を継続するとともに、この後、第2ステージとして、組合員や県内事業者だけでは対応しきれない輸送については、隣接県等の事業者へ参加、協力を求めていくことも今後の課題となるでしょう」（同）

**メモ**　今回の原発事故で放出された放射性物質は、おもに「ヨウ素131」、「セシウム134」、「セシウム137」。ヨウ素131の放射線量が半分に減るまでの時間（半減期）が約8日、セシウム134の半減期が約2年なのに対して、セシウム137は半減期が約30年と長期間影響が残る。このため、一刻でも早く元の姿に戻すために行われているのが除染作業。

除染とは、生活する空間で受ける放射線の量を減らすために、放射性物質を取り除いたり、土で覆ったりすることで、①放射性物質が付着した表土の削り取り、枝葉や落ち葉の除去、建物表面の洗浄等により、放射性物質を生活圏から取り除くことを「除去」②放射性物質を土やコンクリートなどで覆うことを「遮へい」、という。さらに、放射線の強さは、放射性物質から離れるほど弱くなるため、放射性物質を人から「遠ざける」ことで、人への被ばく線量を下げることも除染といえる。

2018・4・1

こちら広報室　四季折々 135

▼スピーカーから、「急病人が出ました！　お急ぎのところすみませんが、この電車は次の駅で止まります」。車内へのアナウンスは、的確かつ緊張感に包まれていました。今年1月に66歳で急逝した俳優・大杉漣氏のことがフラッシュバックしました。▼家族に、友人にお別れも出来ず突然の死。本人もさぞかし悔しかったことでしょう。運命とはいえ、これ以上の残酷な出来事はありません。早速、翌週の週刊誌に、故人を偲ぶ記事と共に病気の兆候・対処について特集記事が掲載されていました。「過信、過身、過請」は、身の破滅かも知れませんね。八面六臂の活躍を望むのは所詮無理があります。一生懸命に事を成す一方で、心身の癒しも必須です。▼奈良県の興福寺に鎮座する三面六臂の「阿修羅像」は、インドでは熱さを招き大地を干上がらせる太陽神として、常に帝釈天と戦う戦闘神ですが、仏教にとりいれられてからは、慈悲の顔も併せ持ち、釈迦を守護する魅惑の仏像として人々を魅了しています。百済から渡来した仏師作との伝承ですが、遠い祖国への熱い想いが込められているのかも知れません。▼平成21年に東京国立博物館で開催された、興福寺創建1300年記念「国宝　阿修羅展」には、約95万人が訪れました。私も、週末の土曜日に行きましたが、阿修羅像に手を合わせ涙ぐむ多くの人達を目の当たりにした、あの時の光景が思い起こされます。世の中が殺伐とする中で、涙を流す純粋な思いが希薄になった気がします。▼最近観た映画『リメンバー・ミー』は、家族愛に溢れたディズニーならではのアニメでした。メキシコを舞台に、日本のお盆の風習と同様の「死者の日」に、現世から死者の国に迷い込んだ少年ミゲルが、過去の家族の出来事を先祖と協力して解決し、現世の人々のわだかまりを解き放つ感動の物語です。アニメとはいえ、その映像の素晴らしさ、ミゲルを取り囲む先祖と現世の家族愛に涙腺が刺激されました。▼「喜怒哀楽」の中で「怒」と「哀」は、忍耐力にも通じ心の中に閉じ込めてしまいがちですが、少しだけ吐露することも肝要かも知れません！

（山崎薫）

東海電子のアルコール測定＆総合点呼システム　新製品のご案内

東海電子株式会社　東京事業所 TEL.042-526-0905　〒190-0012 東京都立川市曙町 2-34-13 オリンピック第3ビル 203 号室　http://www.tokai-denshi.co.jp　東海電子　検索

通信型ドラレコ［Samly］

危険運転、
位置情報、
瞬間受信。

PC・タブレット・スマホですぐに動画再生・動態管理「WEBドラサービス」

株式会社タイガー　www.tiger-inc.co.jp
東京本社：03-5283-7232　〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 2-1-14　A&Xビル2F
札幌支店：011-874-5195　名古屋支店：052-961-9773　大阪支店：06-6201-3841
広島支店：082-243-6361　福岡支店：092-281-5138　熊本営業所：096-206-9556